

# 福岡アジア美術館 令和4年度事業報告

令和5年3月16日  
令和4年度福岡市美術館協議会

## 1 福岡アートネクスト(FaN)事業 (R4~)

暮らしの中で身近にアートに触れる機会を増やし、アーティストの成長支援に取り組む『Fukuoka Art Next』において、当館では主に次の取り組みをおこなった。

### (1) 「エモーショナル・アジア」開催

宮津大輔氏のコレクションとアジア美術館のコレクションを組み合わせ、アジアの現代アートを紹介。ボートレース福岡、吉塚市場、幻住庵でも展示。

### (2) アーティスト・イン・レジデンス事業の拡充

招聘者数・地域を大幅に増やし、海外4組、日本2組、福岡2組のアーティストを招へい。新しいレジデンス施設 Artist Cafe Fukuokaを拠点に滞在制作をおこなった。



「エモーショナル・アジア」展  
(ボートレース福岡会場)



Artist Cafe fukuokaのスタジオでの  
滞在制作風景

## 1 概要

## 2 事業について

- (1) 展示活動（特別展、コレクション展）
- (2) 収集活動（購入、寄贈、寄託）
- (3) 交流事業
- (4) 貸館利用
- (5) 広報・集客に関すること 等

## 3 施設利用状況

## 4 その他

新型コロナウイルス感染症対策について

# 1 概要

- 開館 1999年3月6日開館
- 規模 鉄骨鉄筋コンクリート造 地下4階地上13階のうち1階及び7階、8階  
建物面積151,595.91㎡のうち区分所有 専有面積9,101.05㎡
- 展示室
  - 7階 アジアギャラリー、企画ギャラリー
  - 8階 交流ギャラリー
- その他施設
  - 7階 アートカフェ、ミュージアムショップ、キッズコーナー
  - 8階 あじびホール、交流スタジオ、図書閲覧室
- ギャラリー観覧時間 午前9時30分～午後6時（金曜・土曜は午後8時まで）  
※ギャラリー入室は閉室30分前まで
- 開館時間 午前9時30分～午後7時30分 水曜日休館  
（金曜・土曜は午後8時まで）

## ■組織

※令和4年4月

- ・ 総館長、館長（運営課・学芸課総括）

運営課長	運営係 係長1、事務2、会計年度任用職員5
学芸課長	収集展示係 係長1、学芸員2、再任用1、 会計年度任用職員3
	交流・教育係 係長1、学芸員1、会計年度任用職員3

## ■令和4年度予算

内容	予算額	備考
【歳出】	289,575千円	施設管理、交流事業、展覧会経費、資料収集費 など
【歳入】	37,286千円	施設使用料、常設展観覧料、ふくおか応援寄付 など

- (1) 展示活動（特別展、コレクション展）**
- (2) 収集活動（購入、寄贈、寄託）**
- (3) 交流事業**
- (4) 貸館利用**
- (5) 広報・集客に関すること 等**

# (1) 展示活動

## おいでよ！絵本ミュージアム2022

会期	令和4年7月19日～8月28日 41日間（会期中無休）
主催	福岡アジア美術館、西日本新聞社、 TNCテレビ西日本、 NPO法人子ども文化コミュニティ
入場者数	31,442人
内容	16回目となる今回は「だいすき！」をテーマに、見て、聞いて、触って楽しめる絵本の世界を1000㎡の大空間内に作りあげ、会場では1000冊の絵本のほか、先端技術を使った展示も行った。
会期中の主なイベント	<ul style="list-style-type: none"><li>・たけうちひろ「切り絵でつくる木のモビール」</li><li>・彦坂木版工房「木版画はおもしろい！」</li><li>・聞かせ屋けいたろう「読み聞かせ会」</li></ul>



展示風景

# (1) 展示活動

## エモーショナル・アジア

宮津大輔コレクション×福岡アジア美術館

会期	令和4年9月15日～12月25日 86日間
主催	福岡アジア美術館、西日本新聞社
入場者数	16,033人
内容	<p>日本のトップコレクターのひとりとして知られる宮津大輔氏のコレクションと、アジア美術館のコレクションを組み合わせ、アジアの歴史や現代社会、ジェンダーなどの今を生きる私たちに関わりの深い4つのテーマでアジアの現代アートを紹介。</p> <p>アジア美術館での作品展示、映像作品上映のほか、ポートレース福岡、吉塚市場リトルアジアマーケット、博多旧市街幻住庵でも展示。45作家89点。</p>
会期中の主なイベント	「吉塚市場リトルアジアマーケット×宮津大輔氏スペシャルトーク」「アジアンフードマルシェ」、宮津氏と学芸員のギャラリートークなど



展示風景

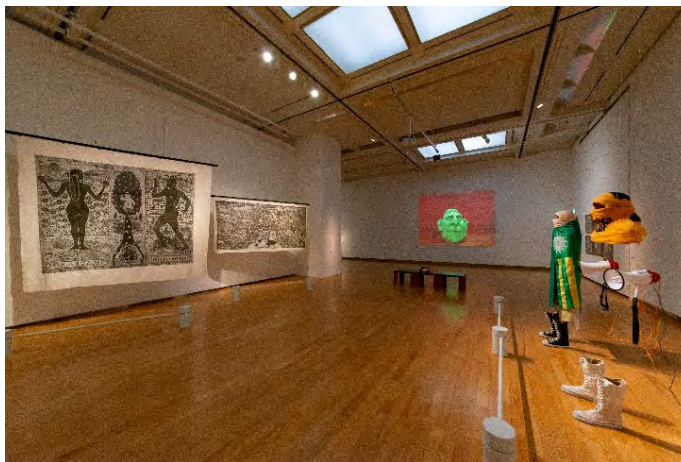
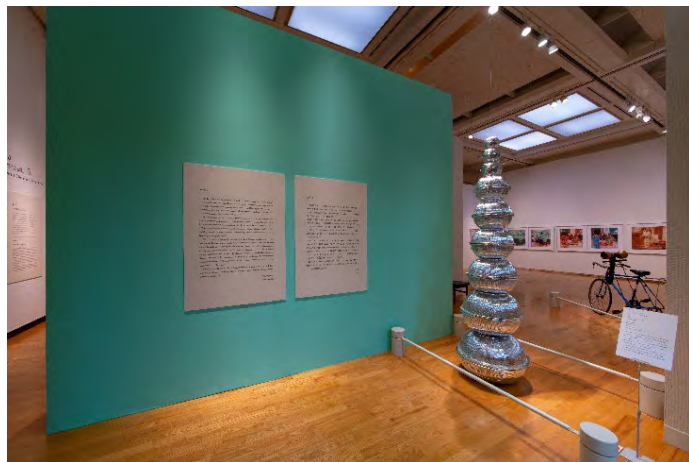


# (1) 展示活動

## エモーショナル・アジア

宮津大輔コレクション×福岡アジア美術館

## 展示風景



アジア美術館会場



ボートレース福岡会場



吉塚市場  
リトルアジアマーケット会場



幻住庵会場

# (1) 展示活動

## インド近代絵画の精華 ～ナンダラル・ボースとウペンドラ・マハラティ～

会期	令和4年9月15日～12月25日 86日間
主催	福岡アジア美術館、ニューデリー国立近代美術館 (在大阪神戸インド総領事館特別協力)
入場者数	16,033人
内容	インド独立75周年・日印国交樹立70周年記念として、ニューデリー国立近代美術館との共催で、インド近代美術のパイオニアであり、横山大観ら日本画壇の重鎮とも交流のあったベンガル派の画家、ナンダラル・ボース（1883-1966）とウペンドラ・マハラティ（1908-1981）の画業の一端を紹介する展覧会を開催した。絵画25点で構成。
会期中の主なイベント	<ul style="list-style-type: none"><li>・インド舞踊「オディッシェ舞踊団スミタレ公演」</li><li>・ギャラリートークなど</li></ul>



会場入口と展示風景

# (1) 展示活動

## アジア文化賞受賞記念 シャジア・シカンダー

会期	令和4年9月23日～11月27日 57日間
主催	福岡市（国際部、アジア美術館、文化振興部）
入場者数	12,454人（アジア美術館 11,435人、Artist Cafe Fukuoka 1,019人）
内容	第32回福岡アジア文化賞（芸術・文化部門）受賞を記念して、パキスタン出身のアーティストであるシャジア・シカンダー氏の展示を、アジア美術館ロビーと Artist Cafe Fukuokaのギャラリーで実施。ムガル朝の伝統細密画を、映像を使い今に生きる魅力的な造形として蘇らせた3作品を公開した。
会期中の 主な イベント	・市民フォーラムをアジア美術館で実施（国際部主催）



展示風景（アジア美術館ロビー）



展示風景（Artist Cafe Fukuoka）

# (1) 展示活動

## コレクション展 アジアの近現代美術

A室



アジアの近現代美術  
通期



○△□  
4/7 ~ 9/6



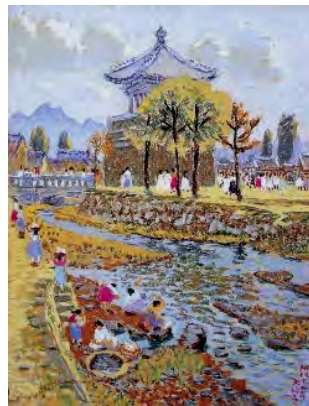
不安の時代  
—1990年代以降の映像表現  
4/7 ~ 9/6



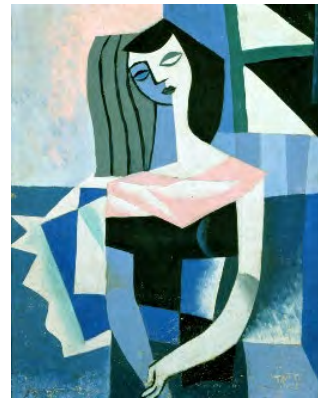
私から問う  
—アジアの現代写真 I  
1/2 ~ 3/21



境界を行き交う—  
アジアのインスタレーション I  
1/2 ~ 3/21



日本人作家が描いた  
〈朝鮮〉  
4/7 ~ 6/14



ベトナム・モダンの写し  
鏡—タ・ティの作品世界  
6/16 ~ 9/6



POSTWAR / 戦後  
1/2 ~ 3/21

# (1) 展示活動

## コレクション展 アジアの近現代美術

B室



草原の国から  
～モンゴル美術の50年

4/7 ~ 6/28



あじびでGO GO!  
乗り物大集合

6/30 ~ 9/6



旅立ちのとき

1/2 ~ 3/21

B室  
(レジデンスの部屋)



バナナの葉っぱ作品からSDGsを考える  
チャクリット・チムノーク

4/7 ~ 9/6



踊りませんか?  
チョン・ヨンドゥ

9/15 ~ 12/25



アパ・カバール (元気ですか)?  
ニンディティオ

1/2 ~ 3/21

## (2) 収集活動（購入、寄贈、寄託）

購入

絵画1点



《南台風光》

ヤン・サンラン（楊三郎） [台湾]

79.6×92.0 cm、油彩・画布、1940年

## (2) 収集活動（購入、寄贈、寄託）

寄贈

441点（立体59点、絵画47点、版画331点、研究資料4点）



《ガランビ灯台》（仮称）

塩月桃甫 [日本]

37.8×45.5 cm、油彩・画布、1935年頃



《バカースラを退治するクリシュナ》

作家不詳 [インド]

15.7×14.6 cm、木版画・紙、  
19世紀後半～20世紀前半



《ヒーロー》

タウィーサック・シートンディー [タイ]

143×170×73 cm、立体、2005年

# (3) 交流事業

## アーティスト・イン・レジデンス事業

### 美術作家招聘事業（第1期）

期間	令和4年7月21日～10月12日（3カ月間）
作家	イ・ビョンチャン（韓国） リーロイ・ニュー（フィリピン）
内容	「FaNウィーク 博多旧市街フェスティバル」のメイン展示のひとつとして、イ・ビョンチャンは東長寺で、リーロイ・ニューは妙楽寺において、大規模なインスタレーションを展示。その後、アジア美術館でも同作品を展示した他、滞在期間中に親子向けのワークショップの開催や、街中でパフォーマンスの記録撮影をおこなった。
参加者数	展覧会：33,333人 トーク、ワークショップ：123人



イ・ビョンチャン（他作家との交流）



アジア美術館での展示風景



# (3) 交流事業

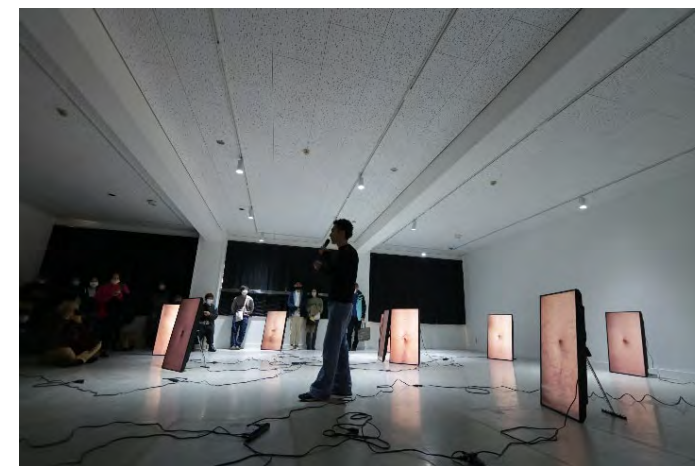
## アーティスト・イン・レジデンス事業

### 美術作家招聘事業（第II期）

期間	令和4年9月16日～12月15日（3カ月間）
作家	ゴン・ジエション／耿傑生（台湾） ソー・ソウエン（福岡） 大西康明（大阪）
内容	新しく開設された「Artist Cafe Fukuoka」のスタジオを拠点に滞在制作を実施。ゴン・ジエションは銭湯（中央区）で作品を展示したほか「博多灯明ウォッチング」に参加。大西康明とソー・ソウエンは、それぞれ市民との共同制作によってインスタレーション作品やパフォーマンスを発表した。
参加者数	展覧会：6,810人 灯明イベント、トーク、パフォーマンス：4,908人



大西康明（市民との共同制作）



ソー・ソウエンのArtist Cafe Fukuokaでの展示風景

# (3) 交流事業

## アーティスト・イン・レジデンス事業

### 美術作家招聘事業（第Ⅲ期）

期間	令和5年1月10日～3月10日（2カ月間）
作家	ドクペルー／ホセ・バラド&ヒメナ・モーラ（ペルー） 長野櫻子（福岡）、下寺孝典（大阪）



## 受入支援事業

期間	令和5年2月7日～3月8日（1カ月間）
作家	チェン・イエン・ペン（マレーシア）
内容	コロナによって中断していたシンガポール「大華銀行絵画展」受賞者を受け入れ、市民との交流事業等を実施。



チェン・イエン・ペンの作品

# (3) 交流事業

## 地域交流事業

博多リバレイン灯明（「博多灯明ウォッチング」同時開催）

開催	令和4年10月22日
内容	博多リバレインが毎秋開催している「博多リバレイン灯明」において、招聘事業Ⅱ期に参加しているゴン・ジェション（台湾）が地上絵の制作をおこなった。



## アーカイブ展示

あじびレジデンスの部屋（アジアギャラリーB）

会期	令和4年4月7日～令和5年3月21日
内容	過去のレジデンス作家の活動と作品を紹介。 第1期：バナナの葉っぱ作品からSDGsを考える チャクリット・チムノーク（タイ） 第2期：踊りませんか？ チョン・ヨンドゥ（韓国） 第3期：アパ・カバール／元気ですか？ ニンディティオ・アディプルノモ（インドネシア）



第1期の展示風景

# (3) 交流事業

## 学校との連携

### スクールプログラム

内容	アジアギャラリーの鑑賞、アジアのアーティストとのワークショップ、アーティストや学芸員によるトーク、アートカードによる授業など
実施件数	30件 1,770人 ※1月末現在



## ボランティア事業

内容	①案内・解説：作品解説や施設案内、②図書資料：配架整理および蔵書点検、③アーカイブ：新聞・雑誌掲載記事のスクラップと整理、④広報：広報誌や企画展ポスターなどの発送、⑤読み聞かせ：絵本や紙芝居の読み聞かせ、⑥活動支援：研修等の企画、⑦交流：招聘アーティストのサポート
登録人数	185人 ※1月末現在



# (3) 交流事業

## オンライン・ワークショップ

バナナの葉っぱでクラトンを作ろう！

実施日	令和4年8月20日（2時間×2回）
参加人数	13組29人
内容	2005年の招聘美術作家 <b>チャクリット・チムノーク（タイ）</b> とオンラインでつながり、タイの正月やお祭りでつかわれる灯明をバナナの葉っぱで制作した。



## 呼吸するビニール彫刻

実施日	令和4年10月9日（2時間×1回）
参加人数	9組18人（子ども9人、保護者9人）
内容	2022年の招聘美術作家 <b>イ・ビョンチャン（韓国）</b> が黒いビニールを用いて、全長8メートルの巨大なオブジェをみんなで共同制作した。



# (4) 貸館利用

## 貸館利用

- ・市民等の創作活動の発表の場としてギャラリー、あじびホール、アートカフェを貸出（ギャラリーは年2回募集、原則1週間単位利用）

- ・令和4年度利用状況（1月末）

(1) 協力企画展

- |  |   |
|--|---|
| ① アニメージュとジブリ展 (81日間)<br>(R4.4.8~7.10) 65,067人  | ② 入江明日香展 時空の旅人 (30日間)<br>(R4.9.3~10.9) 3,865人 |
| ③ ゴールデンカムイ展 (38日間)<br>(R4.10.15~11.27) 43,430人 | ④ バンクシーって誰?展 (80日間)<br>(R4.12.17~3.26) 【開催中】  |

(2) その他貸館

企画ギャラリー (235日)	5件	145,599人
交流ギャラリー (245日)	41件	22,116人
あじびホール	121件	6,797人



## (5) 広報・集客に関すること 等

### 広報活動

- ・ 広報誌「あじびニュース」発行部数：  
Vol.87 10,000部、Vol.88 10,000部、Vol.89 6,000部  
全国の美術館をはじめ、近隣のホテルや飲食店などに毎号3,000~6,000部を配送。
- ・ 特別展広報として、ポスター600部およびチラシ27,500部を全国各地の美術館や公共施設、店舗、大学等 約600件に送付
- ・ SNSを活用し、館の運営全般や展示にまつわる事柄を紹介  
Facebook：運営上の告知及び、展覧会にまつわるブログ記事等発信のおしらせ  
Instagram：各展覧会の様子やレジデンス制作の状況について発信  
Twitter：展覧会案内、イベント案内、所蔵品紹介など



# (5) 広報・集客に関すること 等

## 集客事業・連携・協力事業等

○福岡ミュージアムウィーク2022 (5/14~5/22)

○福岡市文化芸術振興財団との連携

・九響@アートカフェ コンサート (6/25,11/25,2/5)

・エモーショナル・アジア展との関連企画(9/16,10/29,12/24)

タイの伝統舞踊、和胡コンサート、ストリングコンサート他

・迎春企画 春節中国武術団のパフォーマンス(1/22)

○よかトピア財団との連携

・在福留学生との文化交流イベント(12/18)

○博多座との連携

・デジタルスタンプラリー(6/14~11/30)

○アートフェアアジアとの連携

・オープニング歓迎レセプションの開催(9/30)



九響@アートカフェ  
～弦楽四重奏～



在福留学生との文化交流イベント  
～日本の伝統芸能 神楽の舞踊



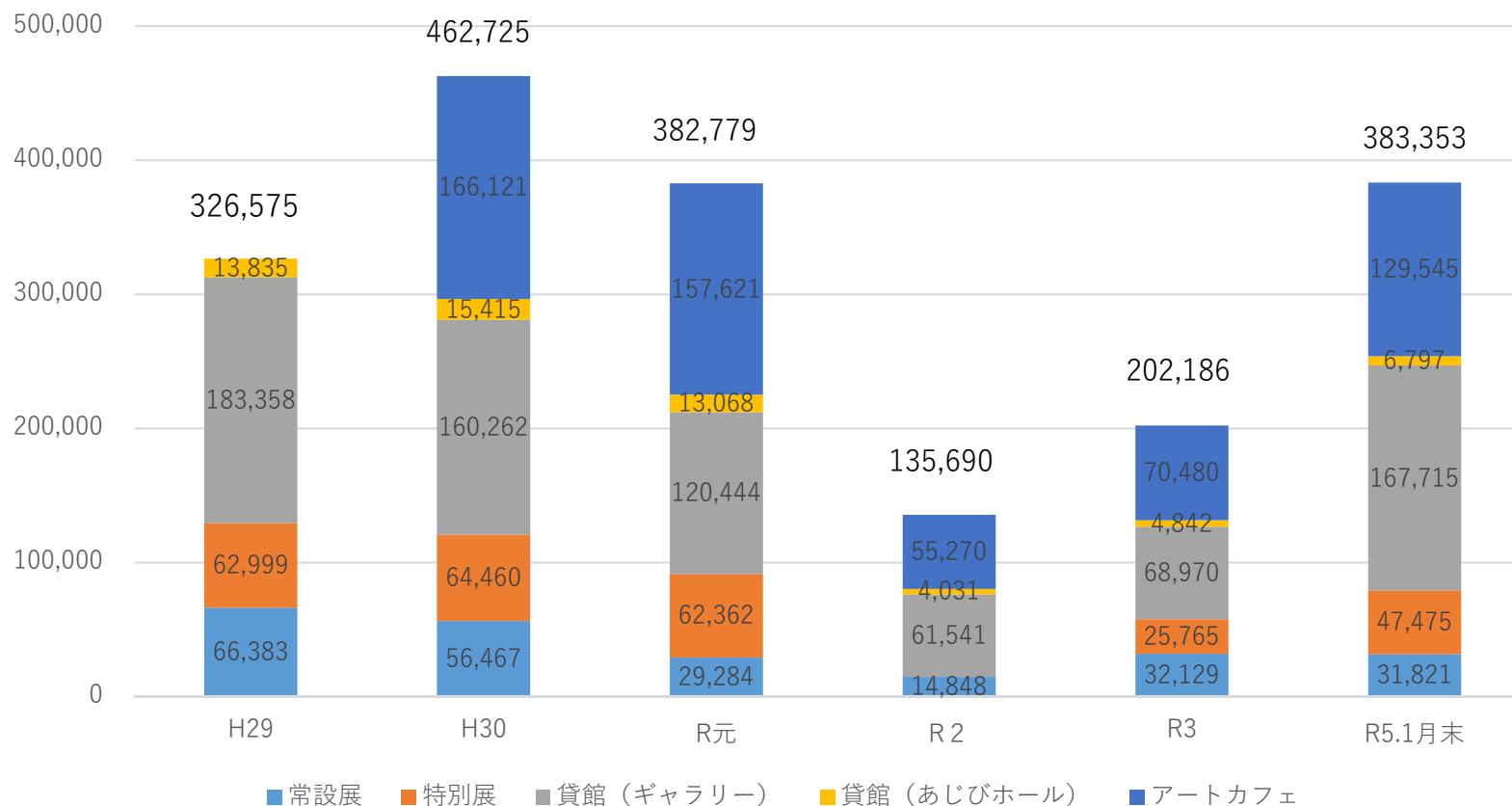
博多座との連携事業  
～デジタルスタンプラリー～



# 3 施設利用状況

## 施設利用者数の推移

(単位：人)



コロナによる 臨時休館：

R2.2.27～3.20、 R2.4.4～5.18、

R3.5.12～6.20及び R3.8.9～9.13までは特別企画展等を除く。

## 新型コロナウイルス感染症対策について

### 引き続き実施した対策

- ・ 入館時の検温（7階サーモカメラ設置）、マスク着用及び手指消毒の徹底
- ・ 施設内の定期的な消毒
- ・ 利用人数の制限（展示室，ホール等）
- ・ 券売カウンターやレジでの飛沫感染予防（アクリル板等の設置）
- ・ 受付時等の来館者同士の距離の確保

### 年度中に緩和した対策

- ・ 利用人数の制限を撤廃（展示室，ホール等）（2月）
- ・ キッズコーナーの利用再開（1月）
- ・ 案内解説ボランティアによる個人来館者への案内サービス再開（1月）

# 福岡アジア美術館 令和5年度事業計画

令和5年3月16日  
令和4年度福岡市美術館協議会

## 1 観覧者目標

## 2 令和5年度予算

## 3 主な事業、取組みについて

展示事業：特別展

コレクション展

交流事業：アーティスト・イン・レジデンス事業

文化芸術を活用した賑わい創出事業

美術教育事業

# 1 観覧者目標

## 観覧者目標：28.3万人

(参考：実績)

令和4年度：247,011人（1月末） 令和3年度：126,864人、令和2年度：76,389人

## 2 令和5年度予算

内容	予算額	備考
【歳出】	340,879千円	施設管理、交流事業、展覧会経費、資料収集費など
【歳入】	46,110千円	施設使用料、常設展観覧料、ふくおか応援寄付など

### ◇主な取り組み

#### ・特別企画展の実施

「水のアジア」、「おいでよ！絵本ミュージアム2023」「世界遺産 大シルクロード展」の3件開催予定

#### ・アーティスト・イン・レジデンス事業の拡充

国内外からの招へい者数が計9組に拡充され、Artist Cafe Fukuokaを拠点に滞在制作する

#### ・魅力向上（美術作品収集の強化）

アジア近現代美術史上重要で未収蔵の作家の作品を取得し、当館のコレクションの魅力をもPR

## 2 主な事業、取組みについて

### 特別展

#### 世界水泳選手権2023福岡大会記念 水のアジア

会期	令和5年7月1日～9月3日 63日間
主催	福岡アジア美術館、西日本新聞社
内容	<p>世界水泳選手権2023福岡大会を記念した展覧会。 水にまつわる神話にヒントを得た作品、豊かな命を育む自然の生態系を描いた作品、水に様々な社会問題を映した作品、作家それぞれの記憶にある水を表現した作品など、約30点を紹介。</p> <p>世界水泳の開会式が行われる会場の芝生広場に、風の吹き抜ける魚のベンチを置き、人びとに憩いの場を提供する。 <b>(検討中)</b></p>
会期中の主なイベント	トークイベント、ワークショップなど



## 2 主な事業、取組みについて

### 特別展

### おいでよ！絵本ミュージアム2023

会期	令和5年7月17日～8月27日 42日間 会期中無休
主催	福岡アジア美術館、西日本新聞社、TNCテレビ西日本、 西日本イベントサービス、YESAND
内容	子どもたちの感性や想像力・創造力を育むために、五感に働きかける様々な仕掛けで、絵本の世界に入り込めるような空間をプロデュースする展覧会。17回目となる今回は「子どもの力」をテーマに、約1000冊の絵本の展示や様々なイベントを通して、子どもならではの想像・創造する力の大切さを伝える。 なお、今後は絵本に限らずさまざまなジャンルを親子で楽しむ、「こどもミュージアム」も検討中である。
会期中の 主な イベント	ワークショップ等



過去の会場風景

## 2 主な事業、取組みについて

### 特別展

### 世界遺産 大シルクロード展

会期	令和6年1月2日～3月24日 72日間
主催	福岡アジア美術館、西日本新聞社、東京富士美術館、 中国人民対外友好協会、中国文物交流中心
内容	東西交易の重要な道であったシルクロードは、 多様な民族が興亡した文化融合の地であった。 本展では、西安、洛陽、蘭州、新疆地域の博物 館などから、日本との縁が深い唐時代を中心と した文物や世界遺産に登録された遺跡の遺品を 借用し、シルクロードの悠久の歴史とひとびと の暮らしを紹介する。
会期中 の 主な イベン ト	音楽、舞踊等のイベント（予定）





# 2 主な事業、取組みについて

## コレクション展 アジアの近現代美術

### A室



アジアの近現代美術

3/23 ~ 6/20



私から問う  
—アジアの現代写真Ⅱ

3/23 ~ 6/20



境界を行き交う—  
アジアのインスタレーションⅡ

3/23 ~ 6/20



Body

9/14 ~ 4/11

### B室



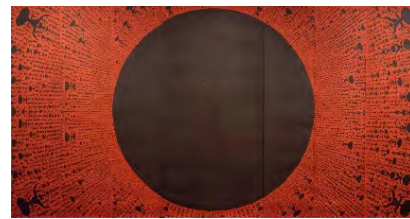
バリ島の美術

3/23 ~ 6/20



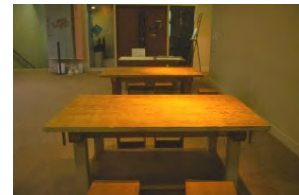
アートと環境

9/14 ~ 12/25



切紙の魔術師—呂勝中

1/2 ~ 4/11



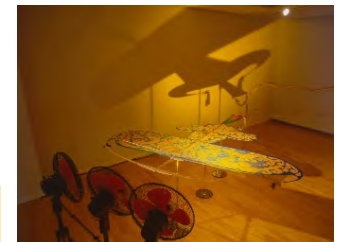
記憶のなかの歴史—  
スティー・クナウイ  
チャヤノン

3/23 ~ 6/20



「昨日、私たちがみた  
夢」はどこへ?—コ  
ビール・アフメッド・  
マサム・チスティ

9/14 ~ 12/25



天空へはばたく風—  
スーン・ヴァナラ

1/2 ~ 4/11

### あじびレジデンスの部屋

## 2 主な事業、取組みについて

### アーティスト・イン・レジデンス事業

(アートのまちづくり推進事業)

期間 招へい者	第Ⅰ期 (7～10月・3カ月) 各期に国内外の 第Ⅱ期 (9～12月・3カ月) … 3組のアーティストが 第Ⅲ期 (1～3月・2カ月) 福岡で滞在制作する
場所	Artist Cafe Fukuoka (旧舞鶴中学校校舎) ほか
内容	200組を超える応募の中から、今後の活躍が期待される国内外のアーティスト9組を招へい。福岡での創作活動や作品発表等のさまざまな機会を提供することで、アーティストが刺激し合って成長し、福岡から世界に羽ばたくことを支援する。 令和5年度は、秋に開催されるFaNウィークを舞台に、市民が現代アート制作現場やこれまでにない作品鑑賞が体験できる場を作る。



Artist Cafe Fukuoka



令和4年度の展示風景

## 2 主な事業、取組みについて

### 美術教育事業（ラーニング・プログラム）

#### (1) 学校との連携

- ・ スクールプログラム（対話型鑑賞、アートカード等）
- ・ 職場体験、博物館実習など

#### (2) ワークショップの開発

- ・ アジア作家とのオンライン・ワークショップ
- ・ 所蔵品を活用したワークショップ

#### (3) アジア美術学習サイトを段階的に拡充

- ・ わかりやすいアジア美術の紹介
- ・ アジアと日本の美術交流史



## 2 主な事業、取組みについて

### 魅力向上（美術作品収集の強化）

○アジア文化賞や世界の主要な美術賞を受賞したアジア人作家の良質で最先端の現代美術作品や、アジア近代美術史上重要で未収蔵の作家の作品を取得し、アジアの近現代美術に特化した当館の先駆的で独自の魅力をPR。

○取得した作品は、福岡市が令和4年度から実施しているFukuoka Art Next（FaN）Week等で初披露する予定。